

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年11月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上1702番地4 (電話) 0997-26-2345
自己評価作成日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年11月14日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の運営理念「明るく穏やかに助け合い思いやりを大切に」をスタッフ全員が意識して利用者と接しています。具体的には以下の通りです。

◆家庭的な雰囲気での思いやり・助け合いを大切にし、利用者がゆったりと過ごす時間を大切に笑顔で何でも話せるホームにします。

◆ひとりひとりの思いを大切にし、その人らしい生活が笑顔で送れるように、利用者の生活リズムに合わせた援助を行う事で、思いが叶うようにします。

◆利用者・家族・地域の方々、職員の声を大切にし、他職種との連携をとり、運営を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員と利用者の関係性も良く、明るくコミュニケーションも良く取れており、笑顔の見える穏やかなホームである。

・利用者個々の思いや意向を大切にし、ご家族からの意向も良く聞き日々のケアに取り組んでいる。

・訪問看護の導入や薬剤師との連携等、医療ケアについても改善強化されており、利用者、家族からも喜ばれている。職員の安心感にもつながっている。

・ホーム内も明るく、季節の飾り付けや利用者が作成した作品を展示しており、皆が楽しめるホームである。また、防災頭巾の備付や刺股の設置など、災害・防犯対策や環境面にも十分配慮されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、いつでも誰でも確認出来る場所に掲示しており、特に職員は、会議時に皆で唱和してケアの統一を図り実践している。	職員で考えた理念であり、今でも大切にしている。ホーム内の目につくところに理念を掲示しており、いつでも意識できるようにしている。会議時に唱和し、職員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭・体育祭・音楽発表会へ招待され、毎年参加している。郷土芸能も季節毎に地域の方が来て交流している。慰問やボランティアの受け入れも行っており、日常的に地域と交流している。	町内会にも加入しており、地域の方の訪問や交流も多い。各行事にも積極的に参加しており、家族や地域、老人会の慰問、小中高校のボランティアの受け入れもあり、事業所と地域の関係性も良好である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所内で認知症高齢者について研修を行い理解を深め、地域で暮らす認知症高齢者の支援や理解者の一員として活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われ、利用者の状況や活動内容を報告している。利用者の要望や課題、サービス内容について意見を出し合い、課題解決や品質向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行われている。行政、家族代表、地域老人会の担当者が毎回積極的に参加している。サービスについてのアンケートを実施したり、ケアについて活発に議論されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より町の担当者と連携し、ケアに関する最新情報を得たり、現場の要望や課題を相談しながら協力関係を構築している。	役場に訪問し、担当者との意見交換することで、最新情報等を収集している。担当者との関係性も良く、ホームの活動にも参加があり、協力関係を構築できている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の「身体拘束委員会」や研修会へ参加し、身体拘束の意義について職員全員が理解を深め「身体拘束はしない」ケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会があり、研修会や事例検討会を開催し職員全員が身体拘束について学んでいる。身体拘束はしない方針である。日中は玄関施錠はしていない。ベッド柵にも配慮し、安全マットを使用している。言葉の拘束についても注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉・心理的・経済的な虐待について研修を通して理解を深め、施設内から虐待が起きないように職員全員が意識して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで利用された方はいらっしゃいませんが、制度については管理者が理解し、関係者へパンフレット等で簡単な説明は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所に関しては特に、利用者や家族の気持ちを十分に察し、丁寧に説明する事で納得・理解して頂き、安心して契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族の意見や要望に対しては運営推進会議等で話し合い、検討・改善に向けた取り組みを行っている。また、検討・改善の取り組み内容は、関係者へ「あじさい通信」等でフィードバックしている。</p>	<p>8月に家族会を開催し、意見や思いを伺った。また、あじさい通信を発行し家族からの要望等にも応じている。写真を添付したりすることで、家族からも大変喜ばれている。朝早くでも夜遅くでも出入りできるように職員が対応するなど、家族の希望にも柔軟に応じている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案は、その都度話を聞き対応するが、テーマによっては苑全体の代表者会議で提案し運営に活かせる様になっている。</p>	<p>職員間の関係性も良く、勤務の交代などもお互い様の思いで対応できている。管理者との面談や相談なども随時実施され、働きやすい環境である。係り分担や利用者の担当制等も職員の意見を取り入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が個々の勤務態度や頑張りを評価し代表者に報告する。働きやすい職場環境整備に努め、定年まで働ける様に代表者へ働きかけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地区の研修会を中心に積極的に研修に参加させている。また、事業所内の研修やOJT、法人内での研修報告発表を通して介護力の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各事業所が集う地区の研修会に参加したり、同業者との相互訪問等の交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人のニーズや身体・精神状況等（アセスメント）を本人・家族に聞き、利用者本位のサービスを提供し安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で家族の不安や困っている事に、アセスメントをベースに耳を傾ける事で精神的な支援を行い信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神状況を的確に把握し、必要な支援が考えられる場合は、他の事業所やサービスを紹介して、相談を受ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が家庭でやっていたことや得意なことを活かし、役割を持って一緒に生活を築き上げて行く様な工夫や声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの提供・共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じ思いで支援していく事に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人・なじみの場所等に本人が関わりを継続出来る様に例えば美容院へ一緒に出掛けたり、事業所に来て頂いたりして継続的な交流が出来る様に働き掛けている。	併設された特養やデイ利用者の来訪や知人たちとの交流も継続できている。美容院へ行く機会は少なくなってきたが、家族と一緒に散髪に出かけたり馴染みの関係性は続いている。墓参りに出かけたり、地域へのドライブに出かけたり関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をしたり、気の合った者同士で過ごせる場所を作り、会話や歌を唄って楽しく過ごす時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方やデイサービスを利用されている方とは、個別にお招きしたり、行事等も一緒に参加し交流を暖めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、声掛けなどコミュニケーションに努め、本人に発言してもらい思いの把握を行っている。言葉や表情から真意を汲み取りそれとなく確認する様にしている。	毎月のケア会議で個々の思いや意向を確認している。表出困難な利用者は家族からの情報や意向を確認し把握している。本人の意向を出来る限り聞き取り入れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やこだわり・馴染みの物や暮らし方を本人・家族・ケアマネ等から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや季節、天候も考慮して動きや声・表情等から心身の状態を感じ取ることが出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で日常生活の様子や表情などの気付きを記入して、本人・家族・職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。	担当者からのアセスメントを共有し計画に取りこんでいる。毎月のケア会議でも検討し、モニタリングは3ヶ月に1回実施。見直しも状況変化に応じ作成している。利用者の日々の様子をメモに残すことで変化や気付きにつながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・体調の変化や日々の様子など気づき等を個別に記録し、全職員が確認出来る様にして、情報の共有を行い介護計画を見直し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の思いや要望に応じて、事業所内外で対応しており、受診の介助や自宅訪問等を柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として、町の行事へ積極的に関わり、祭りや体育祭・音楽発表会等へ参加する事で、暮らしを楽しく過ごせる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、希望者に対しては以前からのかかりつけ医・薬局での診療を継続できるように支援している。	かかりつけ医や公立病院の医師に診てもらえることができおり、本人、家族の安心につながっている。歯科や薬局とも連携が取れ、往診にて指導や助言を頂いている。他科受診にも職員が付き添うなど適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部の訪問看護事業所と契約を結び、24時間連絡体制を確保し、週1回や随時の訪問時相談し助言を受けている。又、通常は看護資格を有するパート職員が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による状態の悪化を極力防ぐ為、利用者の状況を的確に医療機関へ伝え、面会に行ったり、家族・病院と支援方法に関する情報交換を行い早期に退院出来る様に支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者・家族に、プリントを渡して事業所の方針は説明している。 終末期になった場合は、家族・職員・関係機関と話し合い、事業所が出来ることを確認し対応している。	看取り経験はなく、看取りはしない方針であるが、重度化した場合にはその都度、説明同意がなされている。また、延命治療についての説明を明文化し家族と協議することができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急処置の訓練を行っており、AEDも設置している。緊急時の対応については、応急処置、連絡方法等のルールを決めており、研修会等で確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署や地域の消防団の協力を頂き、夜間を含め年3回の避難訓練を行っている。災害に備えて非常食2～3日分備蓄している。個々で防災ズキンも備えている。</p>	<p>年3回の避難訓練を実施、夜間の訓練も実施している。地域の消防団の協力もあり、スムーズな避難協力体制が築かれている。隣接する特養からの応援もあり心強い。個々の防災頭巾も備えており災害対策にも力を入れている。水、米、流動食、カップ麺、冷凍食品、カセットコンロなど常備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会や研修会等で利用者の生活歴を踏まえ、人生や人格（性別を含む）を尊重し、プライバシーを損ねない様な声掛けや対応の仕方について話し合い、実践している。	人格の尊重やプライバシーについては年度始めに必ず実施している。失禁などがあってもさりげなく対応し、周りにも配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で決めた事を押し付けず、本人の考えを尊重する。職員は、選択肢を提案し本人自身で納得出来る様に声掛けや働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態に合わせて、その時々本人の体調や気持ちを尊重し、利用者本位のケアに心掛け柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた支援を行い、衣類等は自分で選んで頂き、個性を尊重している。誕生会や外出時にはおしゃれをして参加している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の野菜や山菜の皮剥き等下ごしらえを皆でやりながら調理方法を相談している。菜園では野菜の苗植えから始め、収穫した野菜を皆で美味しく頂いている。	個々の嗜好調査し可能な限り対応している。菜園で収穫した野菜などを調理することで皆で食事を楽しむことができている。家族や地域からの差し入れも多く、旬の食材を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養栄養士の献立を参考に栄養バランスを考慮し、家庭的な味わいで食欲が湧く様に工夫している。水分補給は、摂取表を付けながら一人ひとりの状態に合せた援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行い、口腔の直接・間接的なケアの重要性を認識し、食後のうがい、入れ歯の洗浄、歯磨き等の声掛けと介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の部屋にはトイレがあり、自身の部屋で排泄する習慣が出来ている。職員は排泄のパターンを把握し、失敗が少なくトイレでの排泄がスムーズに出来る様に支援している。	排泄チェック表を基にパターンを把握し声かけをしてトイレ誘導を行っている。退院後オムツ使用していたがリハビリパンツへ改善された利用者も2名いる。服薬の相談も随時、薬剤師に確認できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・繊維質の多い食材を使用したり水分をしっかり摂るなどしている。身体を動かす事で自然排泄を促す取り組みや、かかりつけ医へ相談をしながら服薬の検討もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な入浴の曜日・時間を設定しているが、一人ひとりの体調や希望、気候を踏まえ気持ち良く入浴してもらえるように心掛けている。	本人の意向に沿いながら、毎日でも入浴できる体制を整えている。入浴困難な利用者にも声かけやタイミングを見ながら対応し、足浴、清拭でも対応している。シャンプーや入浴剤など好きな物を使用し入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の活動を促し生活リズムを整える様に努めており、一人ひとりの運動と休養のバランスが取れるように支援している。 また、夕方は心が安らぐように語り掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの服薬の内容・処方を把握出来る様に、薬の説明書の検索性やビルケースの整頓に心を配っている。処方や用量の変化が見られた時は、協力医療機関や薬局との連携が図れる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭的な雰囲気を目指している事業所の業務（家事）を出来る範囲で利用者の方に手伝ってもらい、自宅のような暮らしを心掛けている。また、野菜作り・裁縫・音楽等好きな方など、その方の生活歴や出来る事で楽しく過ごせる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや散歩に出かけるように支援している。特に本人の生活環境や思い出の場所等を選んで目的地にしている。また、ご家族と外出することも推奨している。	何時でも気軽にホーム脇の遊歩道に出て散歩ができたり、外食、ドライブ、買い物など日常的に外出できるように支援している。家族との外出や自宅に帰ったりでき、利用者、家族からも喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は社会と接する重要なファクターなので、自己管理出来る方には所持してもらい、外出時には使える様に支援している。使わなくても所持だけでも大切なことと認識している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>通信手段の電話や手紙は、本人と社会を繋いでいるので、年賀状や手紙を書く方へは、代筆・投函を支援している。また、家族・知人から連絡しやすい雰囲気作りにも努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂は、利用者全員がゆっくりと居心地良く過ごせる様な雰囲気作りに心掛けている。照明は明るくし、くつろげるソファ、季節の花や手作りの飾り付け等に心砕いている。</p>	<p>各部屋に窓があり明るく、室温も快適で過ごしやすい環境である。手すり設置や車椅子でも介助しやすいスペースも確保されている。季節の飾り物や利用者の作品も掲示されており、来訪者も楽しめる工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にソファを置き仲の良い利用者同士や一人でゆっくり過ごしくつろげるスペースがある。足用のマッサージ機も用意されており利用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはそれぞれトイレ・洗面台があり、利用者の動線を考慮しベッドの位置を工夫している。家族の写真や使い慣れた小物が持ち込まれ居心地良く過ごせる様に配慮している。</p>	<p>トイレ・洗面台は各部屋に設置されている。ベッド、エアコン、タンスも常設され過ごしやす部屋である。家族写真、テレビ、ラジオ、位牌、歩行器など私物の持ち込みも自由であり、部屋も其々の思いに配置され居心地の良い居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせ、手すり浴室・トイレ・廊下・居室等の環境が、安全か自立への配慮がなされているか、日々の業務や会議で確認し、改善している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない